arcserve®

リアルタイムにデータを複製

# Arcserve® Replication
# Arcserve® High Availability

## 遠隔データ保護・災害対策にお悩みの方へ

定期的な作業が
大変で重要なデータを
バックアップ
できていない

障害があると
すぐにユーザ部門から
クレームがきて大変

細い回線でも
遠隔地に確実に
データを送りたい

解決策はこちら

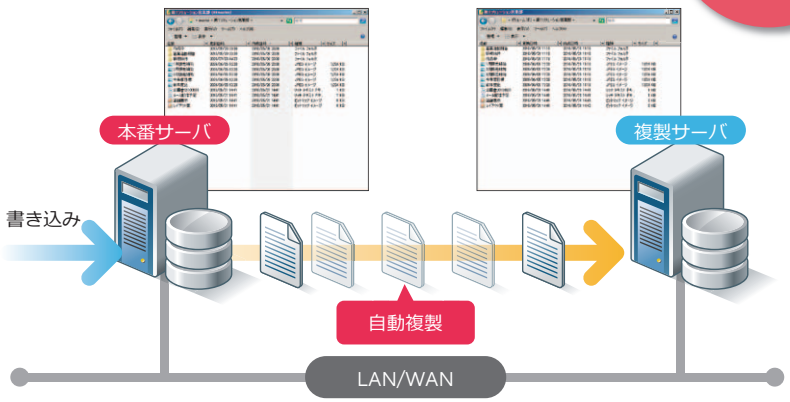
# データ保護・災害対策になぜ「レプリケーション」？

理由 1

## 簡単・手軽なレプリケーション。運用管理者の手間がかからない！

自動複製なので簡単、手間いらず！

レプリケーションとは、稼働中の本番サーバのデータを、ほぼリアルタイムで他のサーバに複製する仕組みのことです。サーバ管理者にとって、レプリケーション最大のメリットは「導入後に手間がかからないこと」。本番サーバのデータに変更があれば、複製サーバにも随時変更がレプリケーションされます。バックアップ媒体を交換するなどの手間は必要なく、いつも通りサーバを使うだけ！さらに既存環境はそのままに導入できるのもメリットです。時間やコストをかけられずにデータ保護が手つかずのサーバに最適なソリューションです。

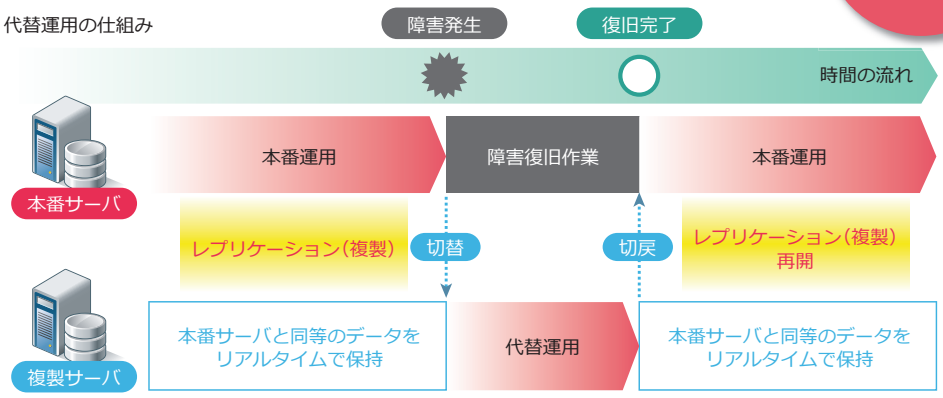



理由 2

## 万が一障害が発生した場合もユーザの仕事を止めない

ユーザからのクレーム知らず！

万が一本番サーバに障害が発生した場合でも、データの参照先を複製サーバに切り替えるだけで、簡単に代替運用が行えます。本番サーバの復旧が完了すれば、複製サーバから本番サーバへスムーズに切り戻しが行えます。そのため、サーバの修復作業やリストア時間でユーザの業務を止めることがありません。

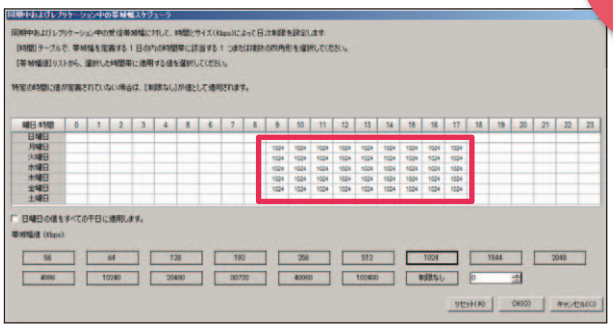



理由 3

## 曜日や時間帯でネットワークの帯域幅を調整して、遠隔地にも安心転送

帯域制御も簡単！

遠隔地へのデータ保護で最も注意すべきポイントは、拠点間を結ぶ回線です。専用線ではなく、業務でも利用している回線を利用してデータ転送を行うと回線を流れるデータ量が増え、業務で必要なデータの転送にも支障が出てしまいます。運用を止めずに、回線の帯域幅を曜日や時間帯で制限する機能が備わっているので、業務時間中は利用する帯域を制限することでネットワークへの負荷を抑えることができます。詳細は無償実機トレーニングで体験ください。



帯域幅のスケジュール設定画面

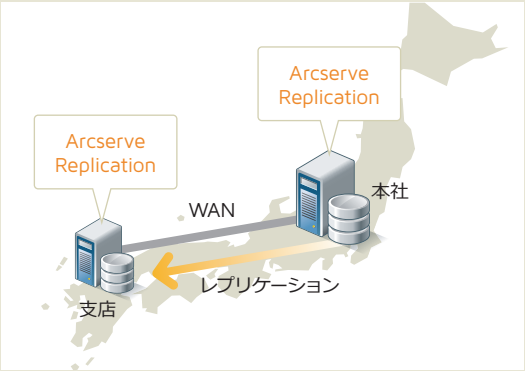
無償実機トレーニング http://arcserve.com/jp/jp-resources/seminar/

# レプリケーションの実際の活用イメージ

## 遠隔地にデータを安全・簡単に転送

「もし洪水でサーバ室に浸水してしまったら…。」「地震でビルが倒壊してしまったら…。」そんな事態に備え遠隔地へのバックアップは欠かせません。Arcserve Replication / High Availability なら、LAN に比べて信頼性の低い WAN 回線でも、データを難なく転送可能。遠隔地のサーバに自動でデータを複製できるので、毎週のテープ搬送に比べ災害対策の手間を大きく減らすことができます。さらに、障害時には複製サーバを本番サーバの代わりとして使う事で業務の停止時間を短く抑えられます。

復旧時間 短い　対災害 強い　システム保護 なし



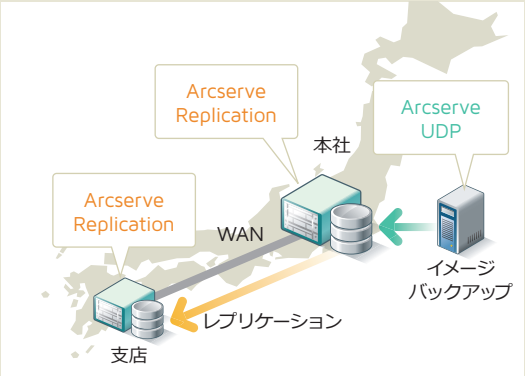

**こんなサーバ管理者におすすめ**

- サーバの災害対策は行いたいが、徹底して予算を抑えたい
- 少なくともデータだけは遠隔地にバックアップしておきたい
- テープ搬送で災害対策を行っているが、運用コストをさらに抑えたい

## 災害発生時でも、遠隔地でシステムを復旧し運用を継続

災害に備えて、システム全体のバックアップデータを遠隔地に保護したい。しかし、バックアップデータを丸ごとWANに流してしまうのはちょっと…。そんな時にはArcserve® Unified Data Protection（UDP）のバックアップデータをArcserve Replicationで災害対策サイトにレプリケーションします。Arcserve UDPでは継続的な増分バックアップを行うため、レプリケーションされるデータ量はわずかです。さらにArcserve Replicationの帯域制御機能や導入前のアセスメント機能など豊富な機能で帯域幅が限られた環境でも安心してご利用いただけます。

復旧時間 普通　対災害 強い　システム保護 強い



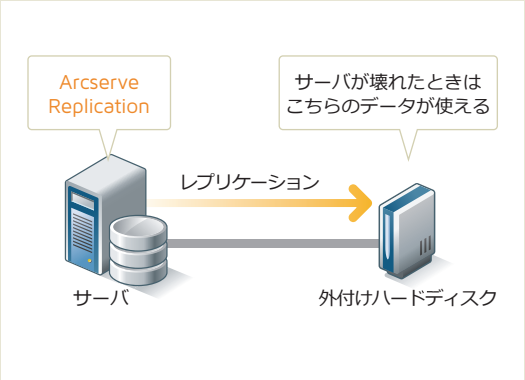

**こんなサーバ管理者におすすめ**

- システム全体のバックアップデータを遠隔地に保存したい
- 災害時に遠隔サイトでサーバを復旧したい

## シングルサーバ・レプリケーションでファイルサーバを簡単バックアップ

「ファイルサーバのデータを毎晩外付けハードディスクにコピーしているが、手間も時間もかかり、残業時間が増えてしまう」。そんなときにおすすめなのが、「シングルサーバ・レプリケーション」です。Arcserve Replicationなら、変更があったファイルをリアルタイムに複製してくれるので、いつも通りファイルサーバを使っているだけでバックアップが取得できます。万が一の場合でも、複製元と同じファイルが外付けハードディスクやNASに保存されているので、リストアしなくてもすぐにファイルが使えます！

復旧時間 短い　対災害 弱い　システム保護 なし




**こんなサーバ管理者におすすめ**

- 手間をかけずに最新のデータをバックアップしたい
- 予算は 10 万円程度

# 実際のお客様導入事例

case 1　データセンターと各都道府県の国保連合会サーバ間でファイル転送　公益社団法人 国民健康保険中央会

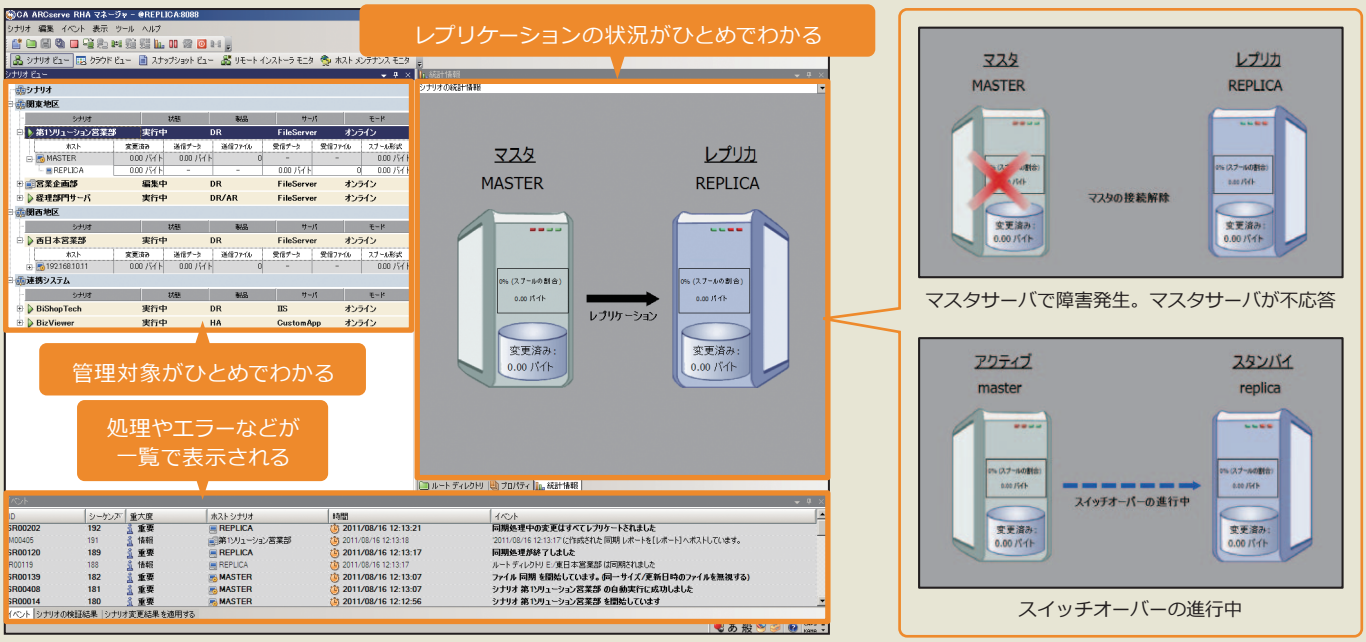
case 2　診療中の現場に欠かせない画像データを、中断なくいつでも提供可能に　医療法人社団 誠馨会 セコメディック病院

詳細はこちら　http://arcserve.com/jp/jp-resources/catalog-center/

# レプリケーションの決定版「Arcserve Replication」

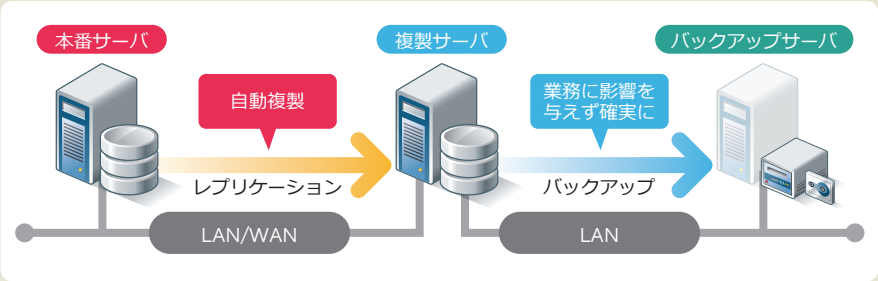
## 使いやすさに徹底してこだわった管理画面

Arcserve Replication/High Availabilityには、レプリケーションの状況がひとめでわかる各種の管理画面が備わっています。
すべて日本語化されており、理解しやすい画面によって、管理者にストレスを与えず、スムーズな操作を実現できます。




## Arcserve® Backupと連携し、業務に影響を与えずバックアップ

Arcserve Replicationは、Arcserveのバックアップソフト、Arcserve Backupと連携する機能が備わっています。複製サーバからテープにバックアップできるので、災害対策拠点へテープを転送する手間を省くことができます。この場合、ユーザは本番サーバでバックアップを行う必要がないので、本番サーバへの負荷も軽減されます。




## 最適な回線速度を計るアセスメントツールで安心のWAN越え

Arcserve Replication/High AvailabilityではLANに比べて低速で信頼性の低いWANを有効に活用するための数多くの機能を備えています。たとえば、アセスメントモードによって、時間当たりの変更量を測定することができます。この情報からレプリケーションに必要な帯域幅やディスク容量をあらかじめ見積もることができます。

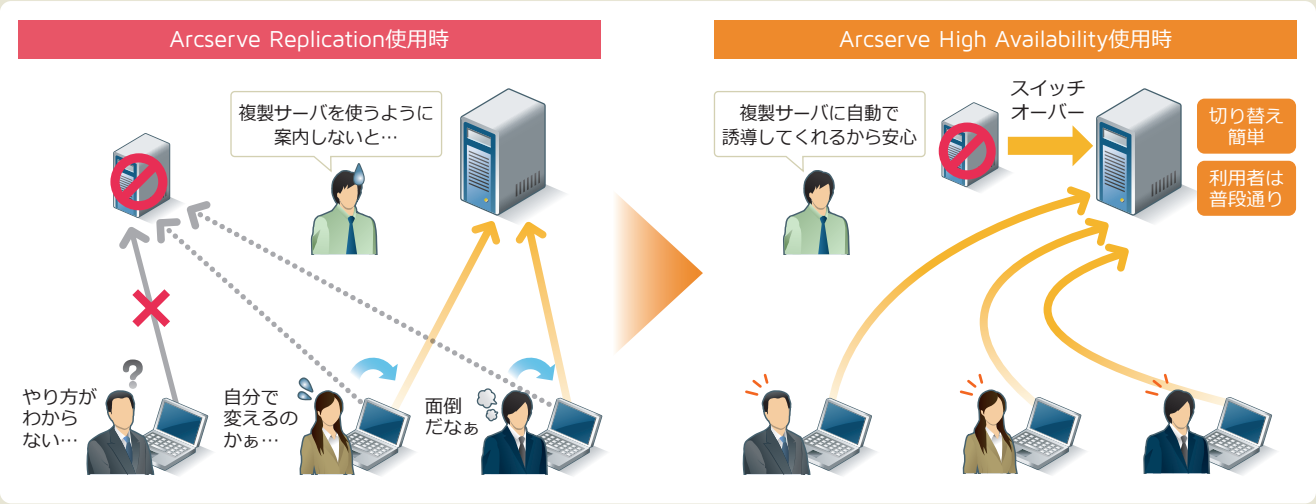
アセスメントモードによる測定データ

トランザクション分析レポート

# 切り替えを自動化する「Arcserve High Availability」

## 切り替えも簡単に！さらなる可用性を実現する「スイッチオーバー」

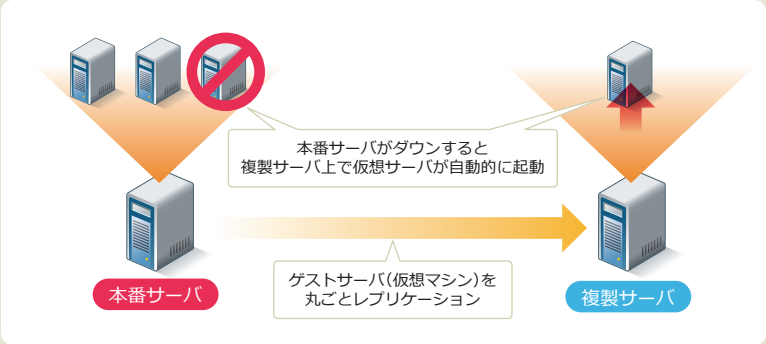
Arcserve High Availability には、複製サーバ側で常に本番サーバの状態をモニタリングし、本番サーバでの障害発生時に、自動的に切り替え作業を行う「スイッチオーバー機能」が備わっています。ユーザは複製サーバへ自動的に誘導されるので、障害を意識することなく利用できます。そのため、管理者の手間をかけることなく、実質的な停止時間を最小化できます。




## 仮想環境にももちろん対応！重要なシステムを効率的に保護

Arcserve Replication/High AvailabilityはVMwareやHyper-V、Citrix XenServerといった仮想環境で物理環境と同様に使用できます。
さらにHyper-V環境ではHyper-Vシナリオを作成してゲストサーバ（仮想マシン）を丸ごとレプリケーションすることができます。システム全体を複製するため、レプリカサーバであらかじめアプリケーションをインストールするといった準備も必要なく、より簡単に導入・運用できます。本番の仮想サーバに障害が発生すると、複製先の仮想サーバが自動的に起動し※代替運用が可能です。

※Arcserve High Availability 使用時



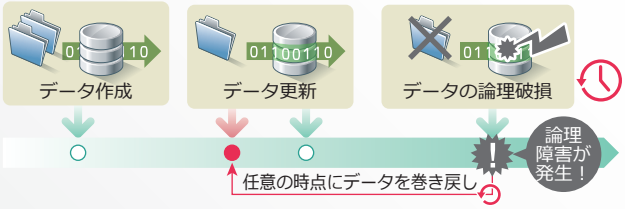

## まだまだあるArcserve Replication/High Availabilityならではの魅力

### システムを止めることなく、本番さながらに復旧手順を確認できる「Assured Recovery」

稼働しているシステムを止めることなく、複製先サーバで本番さながらの復旧訓練を実施できる「Assured Recovery（アシュアード・リカバリ）」が備わっています。

### データベースの復旧に最適な「リワインド・テクノロジー」

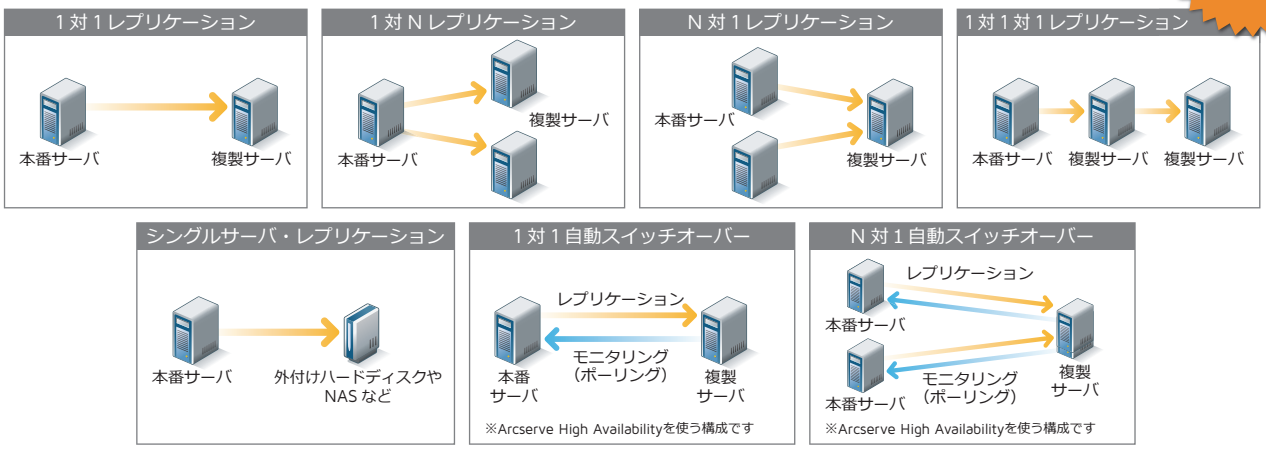
データベースなどの障害時に、時間を遡って、障害発生直前の正常データまで巻き戻してからリストアが行える「リワインド・テクノロジー」が備わっています。



## 構成例

1：1は
もちろん、
N:1構成も

Arcserve Replication でレプリケーションを行う場合、1 対 1 の基本的な構成のほか、本番サーバ 1 台に対して複数台の複製サーバを用いる構成（1 対 N）や、複数台の本番サーバに対して複製サーバ 1 台で対応する構成（N 対 1）など、柔軟な構成が可能です。さらに、Arcserve High Availability を用いて、自動スイッチオーバーを行う構成も可能です。




## 動作要件

対応 OS：Windows Server 2012/2008 R2、
Windows Storage Server 2012 R2/2012/2008 R2 など、
最新のプラットフォームにも対応

対応アプリケーション：Exchange Server 2003、2007、2010、2013、
Microsoft SQL Server 2008 R2/2012、2014、2016
Internet Information Services（IIS）7.5、
Oracle Database 11g R2、12c などに対応

最新情報は弊社webをご覧ください。

Arcserve Replication 関連製品サポート情報　https://arcserve.zendesk.com/hc/ja

## 価格

ビジネスの
安心を
お求めやすい
価格で！

| 製品名称 | | 価格（税抜） | | |
|---|---|---|---|---|
| | | パッケージ製品（メンテナンス別※2） | ライセンスプログラム製品※1 | |
| | | | 1年メンテナンス | 3年メンテナンス |
| ファイルサーバ専用版※3 | | | | |
| Arcserve Replication | | ¥98,000 | ¥118,000 | ¥156,800 |
| Arcserve High Availability | | — | ¥228,000 | ¥305,000 |
| 標準版 | | | | |
| Arcserve Replication | | | | |
| Standard | | — | ¥198,000 | ¥264,000 |
| Enterprise | | — | ¥380,000 | ¥506,700 |
| Virtual Machines※4 | 1本ライセンス | — | ¥100,000 | ¥133,400 |
| | 5本パックライセンス | — | ¥300,000 | ¥400,000 |
| | RHA VM Protection per Host License※5 | — | ¥400,000 | ¥533,400 |
| Arcserve High Availability | | | | |
| Standard | | — | ¥398,000 | ¥530,700 |
| Enterprise | | — | ¥480,000 | ¥640,000 |
| Virtual Machines※4 | 1本ライセンス | — | ¥200,000 | ¥266,700 |
| | 5本パックライセンス | — | ¥600,000 | ¥800,000 |
| | RHA VM Protection per Host License※5 | — | ¥600,000 | ¥800,000 |

Arcserve Replication / HA が対象とするOS/Edition

◆ファイルサーバ専用製品、Standard 製品：Windows Server 2003 Standard Edition、Windows Storage Server 2003 Express Edition/ Workgroup Edition/Standard Edition、Windows Server 2008 Standard Edition、Windows Storage Server 2008 Basic Edition/Workgroup Edition/Standard Edition、Windows Server 2012 Standard Edition、Windows Storage Server 2012 Workgroup/Standard Editionが対象です。

◆ Enterprise 製品：Windows Server 2003 Enterprise Edition/Datacenter Edition、Windows Storage Server 2003 Enterprise Edition、Windows Server 2008 Enterprise Edition/Datacenter Edition、Windows Storage Server 2008 Enterprise Edition、Windows Server2012 Datacenter Editionが対象です。MSFC/MSCS 環境で利用する場合は、Enterprise ライセンスをご購入ください。

※1 ライセンスプログラム製品のメンテナンスにはメンテナンス期間中の製品アップグレードと、テクニカルサポート（平日9:00-17:30）が含まれています。　※2 テクニカルサポートへお問い合わせいただくには、インシデントパックをご購入ください。テクニカルサポート（チョイスサポートプログラム）の詳細はこちら https://arcserve.zendesk.com/hc/ja　※3 データベースのレプリケーションや無停止テスト機能をご利用いただくには、標準版をご購入ください。　※4 仮想マシン（ゲストOS）に本製品をインストールする場合に利用するライセンスです　※5 仮想ホスト単位のライセンスで、仮想ホスト上の仮想マシンの数に制限はありません。

## 各種お問い合わせ先

無償トライアル版のお申し込みはこちら　http://arcserve.com/jp/free-backup-software-trial/

ご購入の際は弊社Webサイト掲載の販売パートナー、またはお近くの販売店にご連絡ください。

arcserve®

すべての製品名、サービス名、会社名およびロゴは、各社の商標、または登録商標です。製品の仕様・性能は予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。
Copyright © 2017 Arcserve(USA), LLC. All rights reserved.

**Arcserve Japan**
お問い合わせ
〒101-0051　東京都千代田区神田神保町1-105　神保町三井ビルディング
お問い合わせ窓口：Arcserveジャパン ダイレクト（0120-410-116）
JapanDirect@arcserve.com
WEBサイト：www.arcserve.com/jp
※記載事項は変更になる場合がございます。　2017年2月現在